

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名		佐賀市立諸富南小学校		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である							
1 前年度 評価結果の概要		①4本柱の生徒指導においては、アイデアを出して継続して取り組むことができた。R6年度も落ち着いた雰囲気を持続できるよう、全職員が共通理解し指導に当たる。 ②授業の中に「聴き合い活動」を取り入れることで、共感的に学び合う姿勢が向上している。今後は、一人一台端末を活用した個別最適な学びを実現すべく、全職員で目的意識を共有して授業改善に取り組みたい。 ③児童理解のための研修やケース会議を行った結果、適切な児童支援と個性の伸長を図ることができた。さらに教育相談を充実させることでいじめの早期発見・早期解決につなげたり、児童一人一人に目標を持たせて児童のよさや可能性を伸ばす活動を取り入れていきたい。 ④地域連携を生かした活動は、地域教育コーディネーターの力を借りながら充実させることができた。R6年度はコミュニティスクールを機能させ、さらに学習の目的を保護者や地域と共有し、「ふるさとを愛する気持ち」を醸成していく。									
2 学校教育目標		ふるさとを愛し、「夢」「ふれあい」「感動」のなかで、生き生きと輝く子どもの育成									
3 本年度の重点目標		・自己存在感、共感的な人間関係、自己決定、安心・安全を視点においた授業改善を目指す。 ・教育相談の充実や開発的生徒指導に取り組み、児童の個性を認め、よさや可能性を伸ばす。 ・読書活動や一人一台端末の活用を行い、児童に課題設定力、公的対話力、協働解決力を向上させる。 ・家庭や地域との連携を生かした教育活動の企画力、コミュニケーション力、情報発信力を高める。									
4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価							
(1)共通評価項目											
		重点取組				最終評価		学校関係者評価			
評価項目		取組内容		成果指標 (数値目標)		具体的取組		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上 【やる気の子育成部】		○全職員による共通理解と共通実践		○ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境づくりをしている教師95%以上		・授業のユニバーサルデザインや学級環境のユニバーサルデザイン化について校内研修等により取り組みの促進を図る。		A	・ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境づくりをしている教師100%。	B	・ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境づくりをしている教師は100%だが、その頻度がどれくらいかも重要である。
		○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践		○「学習中、友達と話し合う活動を行い、その考えを使って課題を解決することができていると思う」と回答した児童85%以上 ○学習のめあてに向かって、あきらめずに取り組んでいると答える児童85%以上 ○QUアンケートのいごちのよいクラスをつくるためのアンケートで満足している児童70%以上 ○「授業で『分かった』』でできた」と実感することがある。」の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合85%以上		・「めあて」から「まとめ」までの流れを意識した授業計画、板書作りを行う。 ・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol. 2」を共通実践する。 ・「人的環境のユニバーサルデザイン」について、校内研修により取り組みの促進を図る。		B	・課題解決81%。 ・粘り強さ89%。 ・QU46%。(2回目を2月下旬に実施する) ・「分かった」88% 中間評価よりは向上しているが、目標に達していないのもあるため「B」	B	・自分の考えをまとめることができないと、伝えることも難しい。教師が意図的に話し合う場面を設定する必要がある。 ・「授業で『分かった』』でできた」と実感することがある。」の質問に対して、肯定的な回答をする児童・保護者の割合が向上していることはいい事だと思う。誘惑が多い家庭環境でも、もっと頑張っていきたい。 ・QUアンケートのいごちのよいクラスをつくるためのアンケートで満足している児童46%については今後、工夫や方策を探る。
●心の教育 【やさしい子育成部】		●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動		○道徳の授業を年1回以上保護者に公開する。 ○「ありがとうの木」の取り組みで、カードを毎学期に1枚以上書くことができた児童90%以上 ○「友達に優しくしたり、優しくしてもらって嬉しかったりしたことがある」と感じる児童80%以上		・6月や12月のフリー参観や授業参観時に全学級道徳の公開する。 ・学級活動、委員会活動、学校行事において児童に役割をもたせ、承認する場を取り入れる。 ・「ありがとうの木」活動で、カードに書く内容の具体例を提示したり、放送で読むカードの内容を精選したりすることで、より自己肯定感を高める活動内容にしていこう。 ・児童の自己肯定感を高めるきっかけとなるよう、「いじめ・いじめの」アンケート欄に「自分のいいところを書く」の欄を設ける。		A	・道徳授業公開は100%達成。 ・「ありがとうの木」は全児童3枚以上書くことができた。 ・優しくしたり、優しくされたりした実感がなかった児童には発達段階に応じた支援をした。	A	・「友達に優しくしたり、優しくしてもらって嬉しかったりしたことがある」と感じる児童が92%の結果だが、目標設定が80%以上は低すぎる。 ・児童・教師・保護者の情報交換と共通認識を常々図ってほしい。
		●いじめの早期発見、早期対応体制の充実		○「いじめを受けたり、いじめたりすることなく、楽しい学校生活を送ることができた」と実感できている児童が80%以上		・差別を許さない学校風土を醸成するため、毎学期始業式のいじめゼロ宣言の実施、人権標語の掲示などを行う。 ・毎月、児童アンケート調査を行い、いじめの早期発見に努める。調査結果については、生徒指導連絡会や連絡会で全職員で共通理解を図り、対応を協議する。 ・校内研修等により、いじめの定義を確認し、対応方法について学ぶ。		A	・「いじめを受けたり、いじめたりすることなく、楽しい学校生活を送ることができた」と実感できている児童が91%で、大きな生徒指導案件も減少した。	A	・楽しく過ごすことができない児童もいる状況。子どもたちがルールをきちんと守った上で、すべての子どもたちが楽しく過ごすことができる学校になる事を期しています。 ・自分で進んで話しかけられる子どもになれば、そうでない子どももいるし、人前で話せない子どもいるので、個別に話を聞いていいたいた事はすこしいことだと思う。
		●◎志を高める教育児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動		●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎小学校卒業後の自らの夢や目標をもち、その実現に向けて頑張ろうと思う気持ちを持つことができる児童が80%以上		・学校行事や各教科等を通して、自分の夢や目標を持つことのできる機会を設ける。 ・6年生は卒業に向けて、夢や目標を自ら考え、語ることができる場面を設ける。		A	・諸南フェスをを行ったことで多くの児童に承認される機会を与え、自己肯定感を高めることができた。 ・児童のキャリア形成のために、社会科見学や出前授業などをどの学年も実施すること	A	・いじめ0をめざして諸南フェスタはよい取り組みです。
●健康・体づくり 【元気な子育成部】		●「運動習慣の改善や定着化」		●体を動かす時間が1週間で100分以上の児童80%以上		・熱中症等、懸念することがなければ積極的に外遊びを奨励し、一日の運動時間を最低20分間は確保する(始業前、業間休み、昼休み、放課後等)。 ・体力を高めるための楽しい運動の紹介をしたり体育の授業で実践したりする。 ・体を動かすイベント等を委員会活動の一環で行い、多くの児童が体を動かす機会を設ける。		A	・外遊び週間やスポーツチャレンジ等のイベントを開催したことで、数%ではあるが前期に比べて体を動かす時間が1週間で100分以上の児童の割合が増加した。結果は、73%	A	・夏休みのラジオ体操の取り組みはよかった。
		○「望ましい生活習慣の形成」		○「望ましい生活習慣の形成」 ・「やる気の子育成部」「やさしい子育成部」の計画に基づき、共通認識のもとに全校で統一した指導を行い、「生活指導四本柱」の各柱の定着率85%以上 ・「早寝、早起き、朝ご飯」の定着を図り、児童や家庭にもその協力をお願いかけ、達成率80%以上 ・家庭学習時間やネット・ゲーム機使用の時間について、把握できていると回答する保護者が80%以上		・「生活指導四本柱」について毎朝の全校放送を行い、児童に習慣化を促す。 ・重点目標達成委員会において取組状況を確認し、指導の徹底を図る。具体的な取組は各育成部で検討提案する。 ・家庭学習が1週間を定期的に行い、家庭からの協力を得ながら規則正しい生活を意識させる。長期休業には「生活チェック表」で毎日の計画をたてさせ、それに沿って生活させるようにする。		B	・「生活指導四本柱」の各柱の定着率86%(平均値)だった。 ・「早寝、早起き、朝ご飯」の達成率は66%と減少。今後も児童や家庭にもその協力をお願いが必要。 ・ネット・ゲーム機使用の時間について、把握できていると回答する保護者が98%。9時までに寝ている児童が75%だった。	B	・早寝・早起き朝ごはん達成率66%は低い。保護者の認識、家庭生活の見直しの改善が必要。 ・ネットやゲームにより朝起きられない子が増えている気がします。学校生活にも影響があり、何とか改善したい問題です。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減		●教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限を全員が遵守する。 ・1ヶ月の時間外在校時間の総計を意識していると答える職員80%以上		・働き方改革に関する研修を学期に1回行い、意識改革を図る。 ・「定時退勤日」を水曜と金曜の選択とし推進する。 ・1ヶ月の時間外在校時間の総計の記録を各自がグラフ化する。 ・会議等の精選を行い、職員の放課後の業務時間を確保する。 ・長期休業中や放課後の業務時間を集中的に確保し、成績評価を計画的に行う。		A	・校時表の見直しを行い、児童の下校時刻が早まった。放課後の事務作業や授業準備に充てる時間が増加し、時間外在校時間は大幅に減少し、全職員が上限	A	・職場環境がよくなることで、先生方も子どもたちへの対応にゆとりができて、相乗効果になればいいと思います。
		○業務改善意識の向上		○日常の業務に関わる課題を、職員自らから見つけ、課題を可視化し、ひとり1改善を図る。		・学校行事や日常の業務についての課題を、学期ごとに可視化・共有し、改善を図る。		A	・前任者等との引継ぎを効果的にし、各職員が見通しを持って計画的に業務にあたることでできた。	A	・職員同士の協働体制や管理職のアドバイス、提言を図る。 ・全校で取り組む課題を検討する。時間外勤務の短縮によって、指導、教授内容が低下しないようにしてほしい。
●特別支援教育の充実と拡張		○支援が必要な児童に対する理解と支援の在り方		○「学校が楽しい」と感じる児童90%以上 ○通常の学習や生活指導において、合理的配慮を行っている」と回答できる職員が95%以上		・担任や級外、生活支援員、特別支援教育支援員同士の情報共有の場を確保し、児童理解に努める。 ・児童の困り感に寄り添い、早期発見、早期対応を行う。 ・「職員連絡会」等で見守りたい児童の状況について報告し、全職員の共通理解を図る。 ・月1回の「生徒指導協議会」では、児童への適切なサポートについて協議する。 ・スクールカウンセラー、巡回相談訪問、ケース会議を通して、支援方法を探るとともにミニ研修会を実施し特別支援に対する啓発活動を行う。 ・個別の支援計画をもとに、継続的な支援を図る。		A	・「学校が楽しい」と感じる児童は91%。子どもが「学校が楽しい」と感じている保護者が88%であった。 ・合理的配慮を「よく行っている」と回答した職員は50%、だいたい行っている」と回答した職員が50%であり前回に比べ改善された。	A	・「学校が楽しい」と回答した児童は91%、と増えています。「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した子どもたちにも楽しんでいるように、もっと学校、保護者、地域の方との連携が重要と感じた。 ・合理的配慮を「よく行っている」と回答した職員が50%は低い。 ・一人一人に合った支援・具体的な目標設定をする。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
		重点取組				最終評価		学校関係者評価			
評価項目		重点取組内容		成果指標 (数値目標)		具体的取組		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○教職員の資質向上		○教員の専門性と意思の向上		○全職員がユニバーサルデザインを取り入れた学習環境づくりを行い、一人1回以上の授業公開を行う。 ○タブレットを用いた授業について、一人1事例の紹介を行う。		・確かな学力の定着と向上にむけて「できるようになる授業の実践」「振り返りの場の設定と充実」を校内研修等を通して実践化を図る。 ・校内研究で、タブレットを用いた授業実践を紹介を年間計画に組み込み、個々の実践につなげる。		A	・全職員がUDを取り入れた授業を公開したりレポートで紹介したりすることができた。	B	・学習のめあてにあわせてタブレットを「あまり使ったことができていない」「できていない」と回答した児童が、39名いるので改善を。
○家庭や地域との連携を生かした教育活動の醸成		○コミュニティスクールとして、教職員やPTAの機運を醸成する。		○年間を通して、職員とPTAの研修会を2回以上行う。 ○各学年の年間指導計画をゲストティーチャーや地域支援の観点から見直す。		・教頭が窓口になり、諸富校区3校に1名配置された地域教育コーディネーターと連携し、「コミュニティスクール」について研修会を行う。 ・各学年毎に、ゲストティーチャーやPTA・地域ボランティアの協力依頼計画表を作成する。		A	・各学年の年間指導計画通り、積極的にゲストティーチャーを招いての学習が実践された。	A	・学校の行事や日々の見守り活動、普遊びなど地域の方とのコミュニケーションが取れていると思います。 ・GTの不足で活動が十分でないように思える。CSが始まったばかりで、3校の統一がないようだ。協議会の活性化を図る必要がある。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育											
5 総合評価・次年度への展望		・教職員の資質向上を図り、日々の授業改善や校内研修を軸にUDを意識した人的環境や学習環境を整え、子どもたちが安心して学べるように教職員の資質向上を図る。 ・「ふるさとを愛する」ことにつながる学習活動の充実を図る。コミュニティスクールを機能させ、さらに学習の目的を保護者や地域と共有し、「ふるさとを愛する気持ち」を醸成していく。 ・児童理解のための研修やケース会議を行い、適切な児童支援と個性の伸長を図る。教育相談を充実させることでいじめの早期発見・早期解決につなげたり、児童一人一人に目標を持たせて児童のよさや可能性を伸ばす。									